

画家たちのパリ、フランス

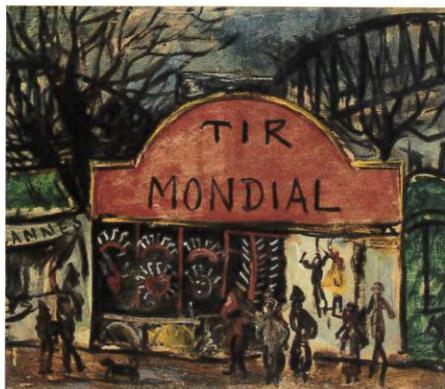
ーひらくまなざしー

明治期から現代まで、日本人画家にとってフランスの首都パリは憧憬の的であり続けました。海路や陸路を使い何日もかけてたどり着いた芸術の都は、美術を志すその眼に新鮮に映ったことでしょうか。期待に胸を膨らませた彼らは、独自の表現を追求するため、同時期に滞在した芸術家たちと切磋琢磨し、時にはルノワールやマチスといった画家の助言を受けながら、制作に励みました。

技術の習得や表現の探求において重要なのは「見ること」と「感じること」であることは言うまでもありません。ルーヴル美術館をはじめとする現地の美術館やギャラリーは、彼らに大きな刺激を与えました。さらに、異国の風景が見せる多様な表情は画家の心に深く刻まれ、表現の幅を広げる契機のひとつとなったようです。

第一回の文部省留学生として留学を果たした岡田三郎助をはじめ、バステル画による「色の速写」の可能性を探究した矢崎千代二、フォーヴィスムやキュビスムなどの新運動を吸収した川島理一郎、エコール・ド・パリを代表する画家・藤田嗣治を師とし「エビハラブルー」を生み出した海老原喜之助、生涯の大半をフランスで過ごしたサロンにて日本人初の金賞を受賞した平賀亀祐、佐伯祐三や外国人画家たちとの交流が刺激となって多様な展開を見せた川口軌外など、戦前戦後を通じて多くの画家が新しい表現を求めてフランスへと渡りました。

今回は当ミュージアムのコレクションより同地に過ごした日本人画家による風景画を中心にご紹介いたします。異国の地だからこそひらかれたであろうそれぞれの画家のまなざしを、絵画の世界で楽しみください。



左：海老原喜之助《雪》制作年不詳、右上段：川口軌外《山々の好め場》制作年不詳
右下段左：高田博厚《ロマン・ロラン夫人像》1932年、下段右：矢崎千代二《広場》（ワ・エルサイエ出版）1922年

■会期中のイベント

*いずれも参加は無料、事前申し込みは不要ですが入館チケットが必要です。

◎学藝員によるミュージアム・トーク

3月22日(日)、5月2日(土)

いずれも午後2時から約30分

◎学藝員とお散歩企画 第一弾

新人学藝員の就任一周年を記念して、松阪の内緒の散歩ルートをゆっくり楽しみます。雨天決行。
(保険は各自でご加入ください。)

4月19日(日)

午後2時にサイトウミュージアム集合 約1時間

◎学藝員による絵画のお話スライド・トーク

展示室にて絵画のよもやま話に花を咲かせます。
毎回異なる内容となります。

6月14日(日)①パリの蜜の味

7月11日(土)②佐伯祐三と仲間たち

いずれも午後2時から約40分

■友の会入会のお誘い

お申し込みから一年間、何度でもご鑑賞いただけます。
小冊子は展覧会ごとに1冊進呈。
お一人様年会費二千円。ご入会・継続時にお好きなポストカードを1枚進呈します。

■次回展示予告

「題名のない絵画展Ⅱ」
2026年7月24日(金)ー10月12日(月・祝)

サイトウミュージアム

三重県松阪市魚町1807-1 ㊦515-0082 Tel.0598-21-1111
<https://www.matsusaka-saito-museum.com>

